

【樹木・草花の部屋】

カルミア（ツツジ科/カルミア属 *Kalmia latifolia*）

和名；カルミア **別名**；アメリカシャクナゲ **英名**；

ツツジ目 常緑低木

原産地；北アメリカ東部 **花言葉**；大きな希望、大志を抱く、野心、さわやかな笑顔

花の色；白、淡紅色、桃、紫



← 写真－1 カルミアの樹形

撮影日：2013年5月27日

撮影場所：倉敷市不洗観音寺にて

撮影者：Mさん

故郷の倉敷市にある不洗観音で見つけました。境内に入るのは初めて……。この花、奈良市の霊山寺の境内にも植えられていた記憶があります。初めてカルミアの花を観たところです。何の花かわかりませんでした。帰宅後、調べて、カルミアと呼ばれる花とわかりました。今から40年ほど前の記憶です。

樹高は1m～5m、葉は革質で厚みがあり披針形で茎に螺旋状につく。濃緑色で表面に光沢があります。つぼみは突起があり金平糖状。葉にはアンドロキシニンという有毒成分が含まれ、特に羊が中毒しやすく、一部の種は Lambkill

（「羊殺し」）と呼ばれているそうです。

写真－2 カルミアの花 ⇒

撮影日：2013年5月27日

撮影場所：倉敷市不洗観音寺にて

撮影者：Mさん

開花期は春で、幾何学的な非常におもしろい形で五角形の浅いお椀のような形の花をボール状にたくさん咲かせます。満開時は木全体を覆うくらいの花を咲かせて見事。花の大きさは2cmほどで、色は白や淡紅色が基本ですが、赤やピンク、紫色の花を咲かせる園芸品種もあり、花に模様が入るものも多く、バラエティーは豊富だそうです。果実は5つの丸い突出部のあるさく果で、開裂して多数の小さな種子を出します。



<ちょっと一言>

カルミアは北アメリカからキューバにかけておよそ7種が分布する常緑樹で、ざっくりと言うとツツジやシャクナゲの仲間。その中でも広く親しまれているのはラティフォリア種で、

【樹木・草花の部屋】

園芸ではこの種を指してカルミアと呼ぶのが一般的だそうです。

ラティフォリア種はコネチカット州の州花となっており、現地ではマウンテン・ローレルとも呼ばれているそうです。日本へ入って来たのは大正 4 年。アメリカにサクラを寄贈したお礼として、ハナミズキなどとともに贈られてきたのが最初とされ、現在は日本でも普及していますが、それは戦後になってからだそうです。

カルミアの名前は北アメリカの植物を採集していたスウェーデンの植物学者、カルムにちなんでいるとのこと。

剪 定

- ・ 自然に育てていても樹型が整うので、あまり剪定の必要はない樹木です。
- ・ 弱々しく細い枝や、樹の内側に向かって伸びる枝は枝分かれしている付け根の部分から切り落とす。
- ・ 年月を経た古い枝は芽吹く力が衰えるので、切り落として若い枝と世代交代させるとよい。
- ・ 芽吹く力は強いので、スペースの関係上、大きくできない場合は、ばっさり枝を整理すること(強剪定)もできますが、強剪定した翌年には花は咲かないので要注意です。
- ・ 剪定適期は、花の咲き終わった直後。花後に伸びた新しい枝の先端に翌年開花する花芽が夏頃に作られるため、夏以降に剪定すると花芽ごと枝を切り落とす可能性が大きくなるので要注意です。